

官掌召使等饗上野武藏使部信乃諸大夫座相摸尊者前駟雜色上總車副下總牛飼遠江檢非違使河内

〔左經記〕寛仁二年正月廿一日乙卯按察大納言四條大納言於大殿道長攝政殿道長大饗料御

屏風詩并歌等擇定令侍從中納言藤原書給詩作者按察四條兩亞相齊信公任式部大輔廣業内親輔尹式部女等也

○按ズルニ寛仁二年正月攝政家大饗ハ又下ニ引ケル榮花物語ニ見エタリ

〔土記〕承保三年正月十三日早旦參右大殿源師房令傳申殿藤原實時御消息云大饗日中又大

臣前机前々所令調設兩人之御料也而内大臣藤原信長重服之間兼存不可被座之由仍除其料可設

一人御料歟將又不論障之有無只如例可令設歟如何者御返答云於蘇甘栗使祿者任宇治殿御時之例可給女裝束歟又至于大臣前机事者可令尋前例給也十九日今日殿大饗也右大殿今日尊

者也今度尊者御机居一前於上達部座中央是内府被遭喪之間不設彼御料也

〔日本紀略六〕天祿元年正月十日壬子太政大臣攝政藤原實賴大饗右大臣在以下參向

天延元年正月十五日内大臣家關白藤原兼通大饗

〔日本紀略九〕永延元年正月十九日壬午攝政家藤原兼家大饗大臣以下行向

〔榮花物語三〕様々の悦今年をば正暦元年といふ正月五日内條の御元服せさせ給さし續き世の中急ぎたちたるに攝政殿藤原兼家二條院にて大饗せさせ給作り立させ給へる有さまえもいは

ずおもしろうめでたければはえ本作はえあり嬉しげに思し興せさせ給一條の右のおと藤原

光尊者には參り給へり目もはるかにおもしろき院の有さまにぞえもいはぬひんがしの對

には内のおほい殿藤原すませ給へばやがて姫君達など物御覽すればこと殿原も御覽すべ

う申させ給へど聞し召いれず宮々いとうつくしきこ男どもにておはします

攝關氏長者例